

病防第49号
令和4年（2022年）12月13日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第2号を公表しましたので送付します。

特 殊 報

令和4年度（2022年度）発生予察特殊報第2号
令和4年（2022年）12月13日
熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 ゴボウ軟腐病（仮称）
- 2 学 名 *Pectobacterium carotovorum*
- 3 発生物種 ゴボウ（キク科）
- 4 発生確認の経過
令和2年（2020年）5月、県内で収穫、洗浄したゴボウにおいて、出荷先で腐敗しているものが確認された。ゴボウは根部切り口部や表面が黒く変色し、軟化腐敗していた（図1）。腐敗部分からは細菌が分離され、ゴボウ根部および葉柄において病原性を確認した。分離した細菌は熊本県農業研究センター生産環境研究所において、*Pectobacterium carotovorum* と同定された。
- 5 国内の発生状況
本病原菌はハクサイやバレイショなど、多数の野菜類において軟腐病を引き起こす病原菌として知られているが、本病原菌によるゴボウの病害の発生は日本国内ではまだ報告されていない。
- 6 病徴
本病害は、出荷後に根部切り口部や表面が黒色の水浸状に軟化腐敗し、悪臭を放つ。栽培ほ場での発病は確認されていないが、葉柄に接種すると、接種部位が黒色の水浸状になり、その後病斑が拡大し、葉柄は萎れて枯死する。
- 7 防除対策
本病害に対する登録農薬は無いため、他の品目における軟腐病の対策と同様に排水対策等の耕種的防除が有効と考えられる。収穫後はできるだけ傷つけないように丁寧に扱い、衛生管理に努める。

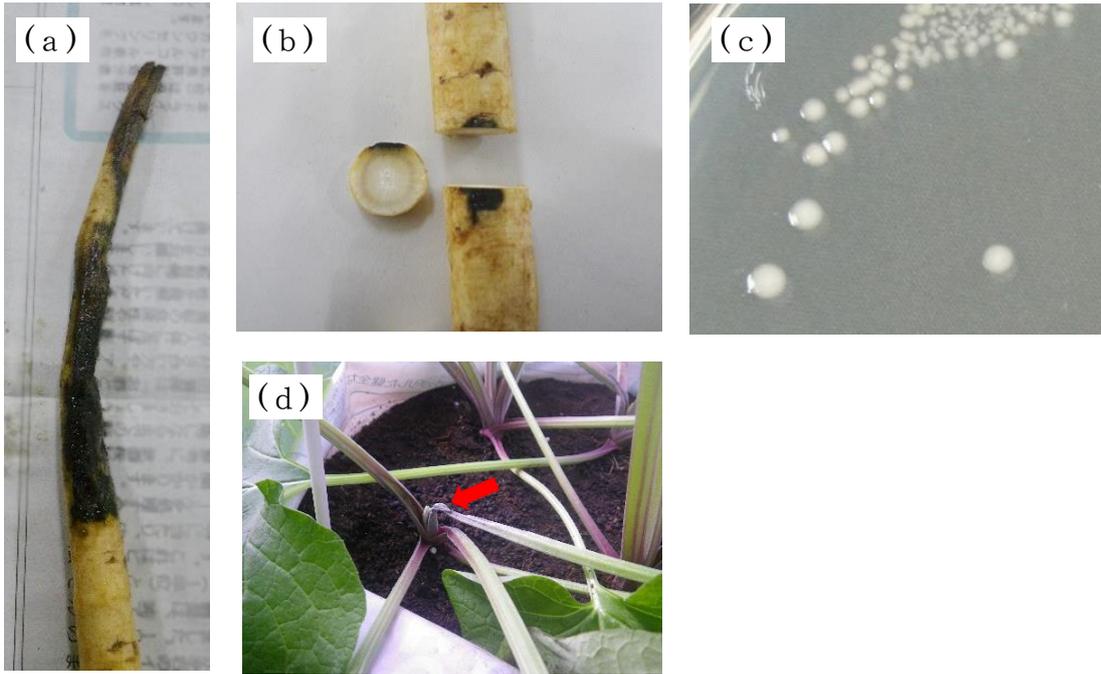


図 ゴボウの腐敗症状と分離菌ならびに葉柄接種の病徴

- a. 根部切り口部の腐敗 b. 根部表面の腐敗とその断面 c. NA培地上の分離菌の
コロニー d. 葉柄接種2日後の病徴 (矢印は接種部位)

問い合わせ先

熊本県病害虫防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)
担当：中井、福岡
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493